

扇の的

扇の的

(平家物語)

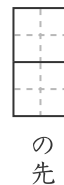
今から八百年以上前、源氏と平家が、屋島の海辺で戦っていたときの事です。夕方になり、戦いがいったん止まると、平家の側から、一そうの小ふねが、こぎ出してきました。ふねの上には、美しい女の人に乗っていて、さおの先に、日の丸のえがかれた扇を立てています。そして、陸にいる源氏の方を向いて、手招きをしました。「この扇を、射落としてみよ。」というのです。

源氏の大將、源義経は、弓の名人である那須与一に、扇を射るように命じました。与一は、断ることができず、馬に乗って、海の中へ進み出しました。

そのとき、北風がはげしくふき、波も高く、ふねは上下にゆれて、扇も、さおの先でひらりと定まりません。海の上では平家が、陸では源氏が、息をのんで見守っています。与一は目を閉じて、心の中で神にいのりました。「どうか、あの扇の真ん中を射させてください。射損じたならば、弓を折り、自害する覚悟です。」

目を開けると、風が少し弱まり、扇も射やすくなっていました。与一は、かぶら矢を取って、ひょうと放ちました。矢は、見事に扇のかなめぎわに当たり、扇は空へまい上がって、ひらひらと海に落ちていきました。平家の人々はふなばたをたたいて、源氏の人々はえびらをたたいて、どよめきました。

1 扇は、何の先に立てられていましたか。



の先

2 与一が扇を射るとき、海の様子はどうでしたか。

ア 風も波もなく、静かだった。

イ 北風がはげしく、波も高かった。

ウ 雨がふっていた。

3 与一が、神にいのったときの心情を説明しましょう。

--	--

4 さいごに、平家と源氏の人々がどよめいたのはどうしてですか。

--

5 敵である平家の人々までもが、ふなばたをたたいたことから分かることとして、合うものに○をつけましょう。

ア 与一の見事なうで前を、敵味方なくたたえた。

イ 平家の人々は、戦いに勝ったと思った。

ウ 平家の人々は、与一をおそれた。